

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場するアスパラガスとジョバンニの家(後編)

石井竹夫

帝京平成大学薬学部
e-mail : tishii@thu.ac.jp

Asparagus Plants and Giovanni's house Appeared in "Night on the Milky Way Train" Written by Kenji Miyazawa (The Latter part)

Takeo ISHII

Faculty of Pharmaceutical Sciences, Teikyo Heisei University

Keywords : 文学と植物のかかわり, ゴシック廻廊, 火輪, 教会堂, 楯, 三角標, 積雲, 天気輪の柱

前報では、ジョバンニの家の前に植えられてある「アスパラガス」と「ケール」が仏教だけでなくあらゆる宗教の宗派や教派の「死後の世界」を統一する象徴としての「五輪塔」をイメージできると報告した。しかし、賢治にとって、全ての宗教の「死後の世界」や宗教の理念そのものを統一しても「ほんたうの幸せ」が得られるという確信には至っていない。科学者でもある賢治は、宗教にさらに科学をも取り込もうとした。本稿では、「五輪塔」の背後にある仏教理念が科学的にも解釈可能であること、そして物語で「五輪塔」の象徴物（アスパラガス、天気輪の柱、三角標）を使って宗教と科学を融合させる実験的試みがなされたことについて説明する。

1. 「五輪」の科学的解釈

仏教では、前報で報告したように「銀河宇宙」の「ほんたう (=真理)」を象徴する「仏」がいる。真言密教の教主であり、「地・水・火・風・空」から成る宇宙の「真理」そのものであるとされる「仏=大日如来」である。賢治は、この「大日如来」の「実体」である「地・水・火・風・空」に当時の最先端の「科学 (=物理学)」の用語を使って科学的な解釈を行っている (あるいは宗教と科学の融合)。例えば、『春と修羅』の中の詩「五輪峠」(下原稿 1924. 3. 24) には、「五輪」は「地水火風空/空といふのは総括だとさ/まあ真空でい、だらう/火はエネルギー/地はまあ固体元素/水は液態元素/風は気態元素と考へるかな/世界もわれわれもこれだといふのさ/心といふのもこれだといふ/いまだって変わらないさな」と説明されている。これは、まさに宗教言語の当時最先端の科学用語を使っての解釈である。物理的空間としての「真空」、「物質」としての「個体元素」、「液体元素」、「気体元素」そして「エ

ネルギー」は物理学における重要な科学用語である。ただし、賢治の言う「真空」は現在、我々が認識している何もない空間ではなく、波動を伝える「光」の媒質と考えられた「光素 (エーテル)」が充満している空間である。「エネルギー」と「物質」の関係は、第三次稿に登場するブルカニロ博士の言葉に借れば、「ひかりといふものは、ひとつのエネルギーだよ。お菓子や三角標も、みんないろいろに組みあげられてきてゐる。だから規則さへさうならば、ひかりがお菓子になることもあるのだ。」ということになっている。これは、アインシュタイン (A. Einstein; 1879-1955) の特殊相対理論の中のエネルギー (E) = 質量 (m) x 光速 (c) 2乗の式 (エネルギーと物質の質量は等価) の影響を受けている。現実空間では、粒子と波動の二面性を持つ「光」が「物質」に変化することはないが、賢治が描いた幻想第四次空間 (夢の中) では、「エネルギー」でもある「光」は「物質」に変化する。しかし、現実世界でも「エネルギー」を使って「物質」である「個体元素」、「液体元素」、「気体元素」を組み合わせて「物」(道具や建造物) を作ることはできる。例えば、賢治が訪れた王子製紙小牧工場や隣接するカーバイド工場では、水力発電所から取り出した「電気エネルギー」を使って紙 (パルプ) や窒素肥料を作っていた。

賢治は、物理学者では、アインシュタイン以外に「電子」を発見したジョセフ・ジョン・トムソン (J. J. Thomson; 1856-1940) の影響も強く受けたといわれる (大塚, 1993)。トムソンは、「物質」の最小単位とされていた「元素」は分割可能であり、「元素」は「原子」の中にちりばめられている「電子」からなるとした (「ブドウパンモデル」と呼ばれた原子模型を考案)。すなわち、「物質」の最小単位は、「電気エネルギー」にも関係する「電子」から成るとした。これは、大塚常樹 (1993) が指摘しているように、賢治にとっては「人間を含めた宇宙の総てが電子というエネルギー単位に

2016年1月28日受付。

人植関係学誌. 15(2):23-26, 2016. 資料・報告.

よって一つに統一された」ことを意味していた。何になるかは仏教に依るところの「因果」によるとして、「わたくしといふ現象」も「因果交流電燈のひとつの青い照明」とした（『春と修羅』の序文）。

このように、賢治は、トムソンの影響を受け「五輪」のなかで、特に「火輪（＝エネルギー）」を重視した。宗教的には「火」は『法華経』の「薬王菩薩本事品」における「焼身自己犠牲」を、また科学的には、高度科学技術で支えられている現代文明の根幹をなす主要なエネルギー源である「電気エネルギー」をイメージさせる。宗教における「焼身自己犠牲」と科学の融合は、童話『グスコブドリの伝記』（1931）で「実践」されている。この物語には冷害に苦しむ農民を救済するため、「潮汐発電所」から得られた「電気エネルギー」を使い石炭を連想させるカルボナード火山を人工的に「まっ赤」に爆発させて、炭酸ガスを噴かせ地球の温暖化を計るという話が記載されている。この物語では、主人公（ブドリ）は最終工程の仕事をするため自発的に火山島に残り、爆発する火山島と運命を共にする（「焼身自己犠牲」）。地球温暖化によって冷害に苦しむ農民に「ほんたうの幸せ」がもたらされたかどうかは地球全体で考えないと判断できないが、理念としての宗教と科学の融合には成功している。

童話『グスコブドリの伝記』が宗教と科学の融合の実践編なら、『銀河鉄道の夜』はその理論編である。この物語には宗教と科学の両方のイメージを重ねた「火輪」が繰り返し登場してくる。

「火輪」として最初に登場するのは、前報で報告したように、旅の出発点である主人公ジョバンニの家の前に植えられていた「地・水・火・風・空」を意味する「ア・バ・ラ・カ・キャ」を「音」からイメージさせる「三角形」の葉を持つ「アスパラガス」である。では、次に現れる時にはどのような姿形になっているのであろうか。

2. 時計屋の「アスパラガスの葉」で飾られた「星座早見」は「五輪塔」の暗喩

次に「火輪」をイメージできるのは、「黒い丘」へ向かう途中の時計屋に置いてある「円い黒い星座早見」を飾る「青いアスパラガスの葉」である。「星座早見」の形を、賢治が当時使っていたとされる平山信（監修）・日本天文学会（編）／三省堂（発行）の星座早見（明治40年第一版発行）から類推してみる。この星座早見盤は丸い星座盤（径26cm）とこれを挟む2枚の台紙からなる三重構造になっていて、表側の台紙は四つの四角い突起を残して円形にかたどられ中央下部に楕円形の星座を見るための窓が設けられている。「青いアスパラガスの葉」とは、前報（石井、2013）で報告したように食用の「アスパラガス」の若芽に付いている「三角形」の「ほんたうの葉」のことである（成長し

て葉に見えるのは仮葉枝）。物語に登場する「星座早見」もこれと同様と仮定して、この星座の上に「アスパラガス」の「三角形」をした葉を飾れば、「五輪」の中の「四角（＝地輪）」、「丸（＝水輪）」、「三角（＝火輪）」が揃うことになる。形としての「半月（＝風輪）」と「団形（＝空輪）」はないが、その代わり「星座早見」の色としての「黒（＝風輪）」とアスパラガスの色である「青（＝空輪）」が加わるので不完全ながら「五輪」が完成する。すなわち、時計屋の「青いアスパラガスの葉」で飾られた「円い黒い星座早見」は、「天文学」（科学）の教具であるとともに「銀河宇宙」を示す「五輪塔」（宗教）の暗喩である。真っ黒な「星座早見」の上に青い「三角形」の「ほんたう」の葉が浮き上がって見えなくてはならぬ。

3. 黒い丘の「天気輪の柱」は自然が生み出した巨大な積乱雲の「五輪塔」

次に「五輪塔」の「火輪」は「黒い丘」の空中に立つ「天気輪の柱」となって再び登場する。ジョバンニが時計屋の「アスパラガスの葉」で飾られた「星座早見」を見た後に牧場を通過して「黒い丘」へと向かう。

牧場のうしろはゆるい丘になって、その黒い平らな頂上は、北の大熊星の下に、ほんやりふだんよりも低く連なって見えました。

ジョバンニは、もう露の降りかかった小さな林のこみちを、どんどのぼって行きました。まっくらな草や、いろいろな形に見えるやぶのしげみの間を、その小さなみちが、一すじ白く星あかりに照らしだされてあったのです。草の中には、ぴかぴか青びかりを出す小さな虫もゐて、ある葉は青くすかし出され、ジョバンニは、さっきみんなの持って行った烏瓜のあかりのやうだとも思ひました。

そのまっ黒な、松や檜の林を越えると、俄かにがらんと空がひらけて、天の川がしらしらと南から北に互ってゐるのが見え、また頂きの、天気輪の柱も見分けられるのでした。つりがねさうか野ぎくかの花が、そこらいちめん、夢の中からも薫りだしたといふやうに咲き、鳥が一疋、丘の上を鳴き続けながら通って行きました。

ジョバンニは、頂の天気輪の柱の下に来て、どかどかするからだを、つめたい草に投げました。

（五、天気輪の柱） 下線は著者（以後同じ）

「天気輪の柱」は、賢治の造語で、この物語以外には『文語詩稿一百篇』の「病技師〔二〕」に、「あえぎてくれれば丘のひら、地平をのぞむ天気輪、白き手巾を草にして、をとめらみたりまどるしき。」（病気の身であえぎながら丘の頂に登ってきたら、天気輪の柱が地平を望

んで立っている。白い手拭を草に敷いて乙女が三人集まっていた」という詩句の中のでてくる。この詩の情景は『銀河鉄道の夜』の「黒い丘」の「頂の天気輪の柱の下に来て、どこどかするからだを、つめたい草に投げました」という情景と類似している。「天気輪の柱」とはどんな柱なのであろうか。この文語詩の下書稿では「天気輪の柱」ではなく「五輪塔」と表現されているので「五輪塔」をイメージしていることは確かである。しかし、これは供養塔や墓塔としての小さな石造の「五輪塔」のことではない。これは、すでに斎藤文一(1991)が指摘しているように、「いたゞき八千尺(約2400m)」にも及ぶ自然が生み出した巨大な「円錐(断面は三角)の形をした「積雲」のことである。賢治は、巨大な「積雲(=積乱雲)」をその発生メカニズムを科学的に解釈して「五輪塔」あるいは「天気輪の柱」と表現して科学と宗教を融合しようとした。『春と修羅 第二集』「十九 晴天恣意」(1924. 3. 25)には、巨大な「積雲」を「五輪塔」の「火輪」と呼ぶ科学的根拠が記載されている。

つめたくうららかな蒼穹のはて
五輪峠の上のあたりに
白く巨きな仏頂状が立ちますと
数字につかれたわたくしの眼は
ひとたびそれを異の空間の
高貴な塔とも愕きますが
畢竟あれは水と空気の散乱系
冬には希な高くまばゆい積雲です
とは云へそれは再考すれば
やはり同じい大塔婆 いたゞき八千尺にも充ちる
光厳浄の構成です
あの天末の青らむま下
きらゝに氷と雪とを鑑ひ
樹や石塚の数をもち
石灰、粘板、砂岩の層と、
花崗斑糲、蛇紋の諸岩、
堅く結んだ準平原は、
まこと地輪の外ならず、
水風輪は云はずもあれ、
白くまばゆい光と熱、
電、磁、その他の勢力は
アレニウスをば俟たずして
たれか火輪をうたがはん
もし空輪を云ふべくば
これら総じて真空の
その顕現を超えませぬ
斯くてひとたびこの構成は
五輪の塔と称すべく
(「白く巨きな仏頂状」は下書稿では「白く巨きな
仏頂体の円錐体」とある)

『春と修羅 第二集』「十九 晴天恣意」

賢治は、水沢臨時緯度観測所から種山ヶ原を望んだときその「五輪峠」の上に「白く巨きな仏頂状」と表現する「円錐」の形をした「積乱雲(=雷雲)」を見ることになるが、準平原たる種山ヶ原を「個体元素」から成る「地輪」に、五輪峠の上に立つ「積乱雲」を「水(液体元素)」と「空気(気体元素)」の二層系からなる「水風輪」に、「積乱雲」の中で発生する「雷」を「火輪」に、そして「積乱雲」のさらに上の「真空」の空を「空輪」になぞらえた。「積乱雲」は、何らかの原因で発生した強い上昇気流によって「積雲」から成長して塔あるいは山のように立ち、雲頂が成層圏下部に達するような雲のことで、賢治はこの「空気と水の二相系」から成る「巨きな仏頂体」の形をした「積雲」を「五輪塔」に例えて「天気輪の柱」と呼んだ。すなわち、ジョバンニがみた「天気輪の柱」は巨大な「積雲」である。「五輪塔」と呼ばなかったのは、物語の底辺を流れる宗教理念が仏教理念を超えてしまっているからであろう。

4. 「天気輪の柱」は入眠時に見た幻影の中で巨大なゴシック様式の教会堂(=三角標)に変貌する

次に、ジョバンニは、「黒い丘」の草の上に寝転んでいたとき、巨大な「五輪塔」を意味する「天気輪の柱(=雷雲)」の下で眠くなってしまふ。このとき「五輪塔」の「火輪」に相当する「雷雲」は、「電気エネルギー」を放出する「雷」のように「ぺかぺか消えたりともったり」しているときに「三角標」に変貌する。

そしてジョバンニはすぐうしろの天気輪の柱がいつかほんやりした三角標のかたちになって、しばらく蛍のやうに、ぺかぺか消えたりともったりしてゐるのを見ました。それはだんだんはっきりして、たうとうりんとうごかないやうになり、濃い鋼青のそらの野原にたちました。いま新しい灼いたばかりの青い鋼の板のやうな、そらの野原に、まっすぐにすきと立ったのです。

するとどこかで、ふしぎな声が、銀河ステーション、銀河ステーションと云ふ声が出たと思ふといきなり眼の前が、ぱっと明るくなって、まるで億万の蛍烏賊(ほたるいか)の火を一ぺんに化石させて、そら中に沈めたといふ工合、またダイヤモンド会社で、ねだんがやすくならないために、わざと穫れないふりをして、かくして置いた金剛石を、誰かがいきなりひっくりかへして、ばら撒いたといふ風に、眼の前がさあっと明るくなって、ジョバンニは、思はず何べんも眼を擦ってしまひました。

気がついてみると、さっきから、ごとごとごと、ジョバンニの乗ってゐる小さな列車が走りつづけてゐたのでした。ほんたうにジョバンニは、夜の軽便鉄道の、小さな黄いろの電燈のなら

んだ車室に、窓から外を見ながら座ってゐたので
す。(六、銀河ステーション)

ジョバンニが眠りに入りかけたときに「雷雲」の中に見た幻影としての「三角標」とは何であろうか。これはすでに報告しているように「ゴシック様式」の「教会堂」の「三角」の形をした「尖塔」であろう(石井, 2014)。これは、「黒い丘」を登るときの「いろいろな形に見えるやぶのしげみ」という意味ありげな記述や小道を覆う「檜の林」そして「青くすかしだされた葉」からも予見できる。なぜならこの「檜の林」や「青くすかしだされた葉」が賢治に、高くそびえる「尖塔」や「アーチ」を特徴とする「ゴシック」(ヨーロッパに先住した「ゲルマン人」の祖先にあたるゴート人風の意味)の教会堂の樹林のような外形と柱の多い内部および「ステンドグラスの窓」をイメージさせるからである。「ゴシック様式」の「教会堂」は、キリスト教が「ゲルマン人」をキリスト教に改宗させるために「樹木崇拜」をする「ゲルマン人」の「心」の故郷である「森」をイメージして考案されたとされる(植田, 1994)。ここで登場する「檜」は、落葉広葉樹の「ヨーロッパナラ (*Quercus robur* L.)」のことで「オーク; oak」とも呼び巨木になることが知られ、高さが40mに達するものもあるという(ヤグルマギクと共にドイツの国花)。「ドイツウヒ」と共に「オーク」や「ブナ」が生育しているドイツの暗い「森」のイメージを重ねている。

『銀河鉄道の夜』第一次稿と同じ時期に書かれた『春と修羅 第二集』の中のたくさんの下書稿を持つ「一七九〔北いっぱい星ぞらに〕」(1924. 8. 17)には、「檜の木立の白いゴシック廻廊や／降るやうな虫の聖歌を／みちはひとすじぼそぼそとして／巨きな黒の榊林」、あるいは「まばらな檜の尖塔や／降るやうな虫のすだきを／路はひとすじしらしらとして／原始の暗い榊林」と「ゴシック様式」の「教会堂」をイメージさせる「檜の林」が形容語句を変えながら繰り返し登場してくる。賢治は、『銀河鉄道の夜』の六章「銀河ステーション」を書き進めたとき、「天気輪の柱」あるいは「三角標」と記載すると同時に脳裏には「教会堂」の「尖塔」や「ステンドグラスの窓」が思い浮かんだと思われる。あるいは、逆に「教会堂」をイメージして「三角標」と記載したのかもしれない。

「黒い丘」の上の「空の野原」に突如出現する「三角標」

は、「天上世界」へ上る「門」や「階段」に相当するので、キリスト教的には松田司朗(1987)が指摘しているように『旧約聖書』(創世記28章第11~18節)に書かれてある「ヤコブが夢の中で見た天から地に向けられた梯子」を暗喩として表現していると思われるが、仏教的には斎藤文一(1991)が指摘しているように『法華経』の「見宝塔品第十一」に登場する「法華経」の正しさを証明するとされる「多宝如来」の塔(多宝塔)の出現を暗喩として表現していると思われる。

さらに「黒い丘」で見た「三角標」が「天上世界」では「星(=光)」の代わりとして登場してくるが、賢治が主張する不完全な幻想第四次空間(夢の中)では「光」は「物質」になることができるので(あるいはそういう「きまり」になっているので)、最初に登場する「三角標」は「黒い丘」で見たのと同じ「物質」でできた「ゴシック様式」の「教会堂」の「尖塔」であろう(石井, 2014)。「三角標」は「五輪塔」に由来している。「信仰」の対象物でもある。だから、物語が過去から現在へ進行するにつれその姿形は、「信仰」が中心だった時代の「教会堂」から、科学を拠り所にして現代の科学の「火」を象徴する「発電所」の「電気エネルギー」を送電する「四角錐」の「送電鉄塔」へと変貌する(石井, 2015)。

引用文献

- 石井竹夫. 2013. 宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場する星座早見を飾るアスパラガスの葉(後編). 人植関係学誌 13(1):31-34.
- 石井竹夫. 2014. 宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場する光輝くススキと絵画的風景(後編). 人植関係学誌 14(1):47-50.
- 石井竹夫. 2015. 宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場する桔梗色の空と三角標. 人植関係学誌 15(1):39-42.
- 宮沢賢治. 1985. 宮沢賢治全集 全十巻. 筑摩書房. 東京.
- 松田司朗. 1987. 宮沢賢治の童話論 深層の原風景. 国土社. 東京.
- 大塚常樹. 1993. 宮沢賢治-心象の宇宙論. 朝文社. 東京.
- 斎藤文一. 1991. 宮沢賢治-四次元論の展開. 国文社. 東京.
- 植田重雄. 1994. ヨーロッパの心-ゲルマンの民族とキリスト教. 丸善. 東京.